

令和 2 年度 自 己 評 価 表

鳥取県立皆生養護学校皆浜分校

中長期目標 (学校ビジョン)	<b>学び 輝き 感動のある学校</b>	幼児・児童・生徒が充実した学校生活を送り、個々の可能性を伸ばし、よりよく生きることができるようにする学校 《 18歳で自立できる人を育てる ～将来を見とおした今のQOLの向上～ 》	今年度の重点目標	1 幼児・児童・生徒一人一人が「生き生きと学ぶ」教育に努める。 2 安心できる保健、給食体制を築く。 3 開かれた学校を推進する。 4 キャリア教育や地域支援の充実に努める。
-------------------	----------------------	---	----------	--

評価項目	評価の具体項目	年 度 当 初			評 価 結 果 ( ) 月		
		現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
一人一人が「生き生きと学ぶ」教育の充実	小学部 自己理解に基づく心の安定と健康回復への意欲を育てる指導と支援の充実	○自分の心身の状態について、次第に客観視できるようになり、言葉で訴える力もついてきた。不調な時の対処法を考えることができはじめています。 ○学習に集中できる時間が短く、緊張度の高い場面では、強い疲労感を訴えるため、学習内容や量、時間などを柔軟に調整する必要があります。	○病気や特性についての自己理解が進み、自分に合った方法で不安を軽減しながら、心理的に安定して過ごすことができている。 ○学校生活において充実感や達成感を得ながら、将来に希望をもち、生き生きと学んでいることが、年2回のアンケートで確認できる。	○医師の指示の下、緊張や不安の程度、過敏性や疲労度に応じて学習内容の変更や調整を行う。 ○「わかる授業」を第一に、授業改善する。 ○自立活動での「自分の取り扱い説明書」づくりを通して、病気や特性への理解を深め、自己管理する力がつくように支援する。 ○適切な学びの場が選べるように、卒業後の就学先について児童と保護者に十分な情報提供を行う。			
	中学部 自己理解に基づく心の安定と進路決定に向けての意欲を高める支援の充実	○様々な取り組みをスモールステップでやり遂げることで、自分に対して自信が持てるようになってきている。 ○ストレス緩和が苦手で、不得意なことに対して自分に合わせて取り組むことが十分にできていない。	○将来に向けて、自己の課題を認識した上で進路選択ができ、自分に合った方法で苦手なことにも取り組めるようになってきていることが、年2回のアンケートで確認できる。	○「自分の取り扱い説明書」づくりを通して自己理解を深め、客観的に自分が見られるようにする。 ○教職員が個々の進路に対する課題を把握して高校調べや高校体験などの学習を進める。 ○本人、保護者、教職員が毎日の連絡を通して体調や学習の状況を共有し、個に応じた学習指導や進路指導に努める。			
ニーズに対応できる専門性の向上	研究部 生きる力に結びつく進路指導と授業改善の推進	○ICTを用いた本校との交流や連携を通し、機器の使い方を習得して授業に活用することで、児童生徒がより深い学びを体験できるようにする。 ○全員が卒業学年であり、昨年以上に児童生徒の進路指導に結びつくような専門性の高まる研修を持つ必要がある。 ○皆浜分校の一員としての自尊心を高める学習を進めている。	○定期的かつ計画的に設定された教職員の研修・研究が、ICTの活用も含めた授業改善や、本校との交流等に活かされ、分校児童生徒全員が自分の将来を見通した進路保障・進路選択ができています。	○月1回を目安に、教育相談や病気、障がいの特性についての研修を工夫し、教職員の専門性をより向上させて、進路指導に活かす。 ○本校、医療、スクールカウンセラー等と連携して、進路決定だけでなく、その先までを見据えた適切な進路指導を行う。 ○進学や受験対応を考慮した、確かな学力を身につけるための授業改善を行う。			
	支援部 将来を見据えた教育相談と進路指導の充実	○児童生徒の実態に応じ、日々のきめ細かな配慮はできているが、将来の生きる力(自立)につながる教育相談、進路指導の弱さがある。 ○児童生徒の実態(心身症)から、学校外での体験活動を通して、一人ひとりが自分の将来を見通すことができる進路指導に難しさがある。	○児童生徒が個々の病気を自己理解し、進んで改善、克服しようと努力している。 ○児童生徒が個々のキャリアパスポートを作成することにより、将来の夢と希望を持ち自分の生き方を考えている。 ○児童生徒や保護者が、支援を受けているという安心感を年2回のアンケートで確認できる。	○自立活動の指導、個別の指導計画、個別の教育支援計画及びキャリアパスポートを活用し、全教職員が共通理解を図りながら指導する。 ○医療、スクールカウンセラー等と連携して継続的な支援を行い、卒業後を見据えた適切な指導を行う。			
学 康 校 と 生 安 活 全 にお 確 け 保 健	健康安全部 ○安心して登校できる環境作りと個々の心身の状況に応じた支援の充実	○緊張の連続、疲れ、不安などから学校や学習や行事などに向かえない児童生徒がいる。 ○生活リズムが定着しない生徒があり朝の登校に間に合わなかったり遅刻・欠席となることがある。	○児童生徒が卒業後の自分をイメージし、社会の中で生きていくために、病状から来る困難さを軽減し生活を整えようとしていることが、教育相談や懇談で確認できる。	○心身の状態を把握する健康観察や情報収集に努め、各学部、支援部、外部機関とも連携して生活・学習の面でも個々に応じた指導支援をしていく。 ○保護者や関係機関と連絡を密に取りながら、児童生徒が自分の病状の理解を深めるとともに、病状から来る困難さを自分に合った方法で軽減しながら学校で過ごせるように支援していく。			

評価基準 A: 十分達成 [100~80%] B: 概ね達成 [80~60%程度] C: 変化の兆し [60~40%程度] D: まだ不十分 [40~30%程度] E: 目標・方策の見直し [30%以下]